



## 第1回

# 「立川の農」

# 写真コンテスト

あなたが感じる立川の「農」を  
写真にしてみませんか

立川市内の農業を撮影した写真を募集しています。  
農業に関するものであれば、  
被写体は人、風景、野菜、畜産、農機具など、何でもOKです。  
立川の農業の魅力が伝わる作品をお待ちしています。



### 応募方法

- 点数 1人3点まで
- 条件
  - ・プリント印刷(デジタルデータ、ネガ・ポジフィルムでの応募は受け付けません)
  - ・令和元年5月1日～12月20日に撮影されたもの
  - ・サイズ等くわしい条件は実施要項(市役所、各図書館・福祉会館などで配布するほか、市ホームページからダウンロードも可)をご覧ください
- 締め切り 12月20日(金)(必着)
- 提出方法 直接、または宅配便、郵送で産業観光課農業振興係(市役所2階48番窓口)内線2650へ



詳細はコチラをチェック! ▶

### 選考・賞品

- 市長賞(賞状、賞品)1人
- 立川農業振興会議会長賞(賞状、賞品)1人
- 特別賞(賞状、賞品)若干名



賞品イメージ



# 大特集! 立川の特産品「東京うど」の魅力!

## 徹底解剖! うど室はどうなっている?

東京うどは非常に繊細な野菜で、きれいな白い色を出すためには日光を当てないように栽培する必要があります。そのため、地下およそ3mの「うど室」と呼ばれる穴蔵の中で栽培されています。

## 東京うどとは?

ウコギ科の植物で、白い色が特徴の数少ない日本原産の野菜です。江戸東京野菜として注目を浴びており、各種メディアでも取り上げられています。主な出荷時期は、12月中旬ごろから4月末ごろまでですが、生産者の努力により5月以降もファーマーズセンターみのーれ立川を中心に高品質な立川産の東京うどを販売しています。

## 立川市うど生産組合について

市内の東京うど生産者で構成する団体で、現在19軒の農業者が所属しています。市内で質の高い東京うどの生産を行っていることはもちろん、農業祭等の各種イベントの企画・運営や、毎年2月ごろに行ううど品評会などにより、東京うどのPRを行っています。



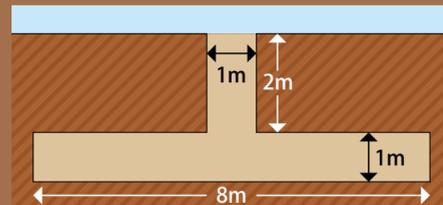
## お手頃サイズの「立川こまち」はいかがでしょうか?

より多くの方に立川産の東京うどを手にとってもらえるように、従来の75cm程度のサイズから50cm程度に短くし、価格を下げた「立川こまち」をブランド化して販売しています。お求めやすい形になっておりますので、ぜひお買い求めください。



## 東京うどを育てる地下のうど室の断面図・出入口

うど室の中は年間をととして温度18度程度をキープしています。長時間の作業の際は酸欠状態になっていないか分かるように、火のついたロウロクを持って入っています。



「目でみる地下の図鑑」こどもくらぶ・続 東京書籍・刊より

## 光にも風にも当てずに育てることで、真っ白なうどができあがる

根株を伏せ込み、丁寧に栽培を行います。長径の東京うどは1か月程度、短径の立川こまちは25日程度の栽培期間を経て、皆さんの食卓に届いています。主な栄養素はビタミンB1・B2、アスパラギン酸などで、利尿作用や血行促進、便秘改善の効能があるとされています。



## 立川市公認なりそこねキャラクター「ウドラ」をご存じですか?

ウドラは立川市のオリジナルキャラクター公募に応募するためにつくられた、立川市の特産品である「東京うど」を怪獣化したキャラクターです。市民投票の結果2位となりましたが、立川市公認なりそこねキャラクターとして再び現れ、立川産うどのPRを行っています。



©UDOLLAND

## うど生産の年間スケジュール

### 東京うどの栽培

11月中旬から畑で栽培したうどの根株をうど室に伏せ込み、約1か月後に収穫を行います。伏せ込み作業は7月中旬まで、うど室に空きができた段階で順次行っていきます。



11月～7月

### 根株とは?

東京うどを栽培するための「種」の役割を果たす根っこで、養分をたくさん蓄えた根株を室に伏せ込むと、よきよきと白い東京うどが生えてきます。

### うどの根株の栽培

次年度の東京うどの栽培に向けて根株を育てるために、掘り上げたうどの根株の切り分けを行います。



2月～3月

切り分けた根株の一部を畑に植え付けます。立川市内の畑に限らず、立川市から一部補助を受けて、標高が高くても夏場も涼しい群馬県渋川市赤城町に委託栽培などを行うことで良質な根株を栽培しています。



5月

十分に育ったうどの根株を掘り上げ、伏せ込み用と次年度の栽培用に分けて管理を行います。



1月～3月

こうち 鴻地さんに、1年のスケジュールを取材しました。立川市うど生産組合の前組合長。うど農家として2代目。



## 直売所はココにあります!

ファーマーズセンターみのーれ立川  
立川市砂川町2-1-5  
(国営昭和記念公園北側)

営業時間 【4月～10月】午前10時～午後6時  
【11月～3月】午前10時～午後5時

定休日 12月31日～1月4日

紹介している  
東京うどなどの農畜産物は  
こちらで購入できます。





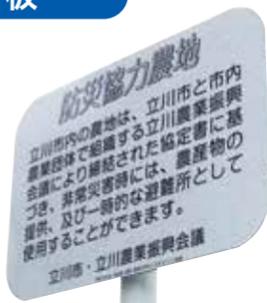
ご存知ですか?

## 災害時の農地利用

立川市と立川農業振興会議（農業者の横断的組織）は、平成23年5月に防災協定を結んでいます。この協定は災害発生時、または発生するおそれがある場合において、農産物の供給および農地の使用について取り決めたものです。

### 地域防災農地看板

地域防災農地看板は協定の周知啓発のために設置されています。設置された農地だけが防災協力農地ではなく、立川の農地全体が防災協力農地です。もしもの時の頼れる農地を覚えておいてください。



### 防災兼用井戸

防災兼用井戸は、通常時には農業用水を供給することで農業生産の向上に寄与し、災害時には周辺住民へ生活用水などを供給します。都と市の補助事業により、新たに非常用発電機を付加した防災兼用井戸を11基整備（予定分も含む）しています。今年度中に発行を計画している「農地防災・直売所マップ（仮称）」にも対象箇所を掲載する予定です。



募集中!

## 援農ボランティア

後継者不足や高齢化による人手不足に悩む農業者を、無報酬で支援するボランティア制度です。農業に関心があり、週2回程度の活動ができる方を随時募集しています（回数や時間等は要相談）。15年間継続して活動している方がいらっしゃるよう、長期間活動が可能なボランティアです。皆さんの参加をお待ちしています。



市長と記念撮影

圃産業観光課農業振興係・内線2650

15年表彰を受けられた青木さん、新林さん、桑田さん（左から）。長らくの活動ありがとうございます!

知っておこう!

## 減農薬で栽培された農産物のシルシ!!

### 東京都エコ農産物認証制度

化学合成農薬と化学肥料を削減して作られた農産物を示す、東京都の独自認証制度です。削減割合に応じて3つの認証区分があります。市内では令和元年9月現在22軒の農業者が認証されています。直売所などでぜひ探してみてください。



# 立川市農研会



## 立川市農研会とは?

立川市農研会 会長 滝島 聡

立川市農研会は、市内の野菜・果樹・植木・畜産農家の農業後継者で構成されている団体で、現在会員数は47名です。市の委託による市内在住の親子を対象とした「収穫体験」や、種まきから収穫までを行う「農業体験」、市内小学校での「食育・緑育授業」など、市民の皆さんに、農業の楽しさや立川農業の魅力をPRする活動を行っています。



## 立川市農研会が取り組んでいる事業

### 食育・緑育授業(一例)

市内の小学校で、校庭の樹木や地元の野菜、果実に関するクイズを行い、楽しく学べる授業を行っています。これらを通じて、緑の魅力や、食べることの大切さを伝えています。



### 新しくホームページを作成しました

その他の活動についても多くの方に知っていただきたいので、ぜひご覧ください。

立川市農研会ホームページ

<https://tachikawashi-noukenkai.com/>

